

明るく元気の出る町

平成9年7月1日発行・毎月1日 編集・発行/秋田県東由利町役場企画課

広報

ひがしゆり

東由利町

1997 7

NO.508

HIGASHIYURI



「ぼくたち4人の1年生
だけど毎日楽しいよ！」

～大琴小1年生のみなさん～

町イメージ
キャラクター
「モウ太くん」



▲懐かしの青空教室

大台分校の歌
遠き山脈にかこまれて
静かに見おろす東由利
ああわれらこの学舎に
いつくしみきたえたる
このからだ
開けゆく大台
大台分校

大台分校が約八十年の歴史に終始符を打ちました。かつては四校あった小学校関係の分校。最後まで残った大台分校でしたが、高村、祝沢、沼に引き続いて閉校式をむかえることになりました。学校は心の故郷、その学校がなくなるということは、自分の故郷がなくなるほど寂しいこと。分校は地域の人々にとってどんな役割を果たしてきたのでしょうか。「さようなら大台分校」

さようなら大台分校

ほたるの光斉唱の中、永い歴史閉じる

六月十五日、大琴小学校大台分校で閉校式が行われ、約八十年もの歴史に終始符を打ちました。

この日「大台分校の閉校をこの目で見届けよう」と集まった卒業生は約百二十人。それぞれの思いが詰まった分校での思い出を語りあっていました。

大台分校は一九一九年(大正八)、当時の下郷村立宿小学校の大台文教場として、故木島孫治氏が自らの住家を開



さようなら大台分校

▲当日集まった大台分校卒業生たち

大台分校、閉校をむかえる



▲大台分校が今静かに幕を閉じる

設したものです。その後何度かの改築などを経て、昭和二十四年に常設設置が村議会で可決、三十一年には現在地に九十五万円で新築されました。昭和三十年代には三十五人もの児童が分校で学んだこともあったようです。四十八年には約一千万円を投じ現在の校舎が落成。「子供たちはもちろん我々にも大きな自信がわいてくる」と当時の広報で紹介されています。六十三年には冬季分校として再出発しましたが、児童の減少、道路改良などで本校登校が可能になり、平成六年に休校、そして今年三月、二百三十人あまりの卒業生を送り出した大台分校は閉校をむかえました。

今回地域住民らで組織した「さようなら大台分校実行委員会」では、閉校を惜しむ意味をこめ、この日閉校式を行いました。

大台文教場を築いた故木島孫治氏代理人に感謝状がおくられたあと、来賓、恩師や卒業生らの挨拶と続き、懐かしいエピソードが披露される度にうなずく姿が見受けられました。また大台在校生らに記念品がおくられました。

「ほたるの光、窓の雪・・・」。ほたるの光斉唱では感極まって涙ぐむ卒業生もいました。

式後の親睦会では、大台出身の浅野和子さんらが民謡などを披露。大台分校の閉校をにぎやかに惜しみあっていました。

大台の地名由来

校倉書房の「地名語源辞典」によれば、東北地方の方言でタイは「平地・野原」の意とあり、アイヌ語では「森林」の意だが、互いに関係があると思われる。ダイとにごる方言が茨城県では「高地・台地」。タイは岱・平・台などで表わされるが、金田一京助はタイは高地の上面の平らかな地形を言っている。

なお、大台という地名は地籍では一軒のみである。

解説・畑山昭一氏

大台分校はどう紹介されてきたか

閉校式は新聞一紙で紹介されました。それに関連して広報誌で大台がどのように紹介されたのか、調べてみました。

さよなら大台分校

15日に卒業生ら校舎に集い
閉校式 卒業生ら校舎に集い

東由利

三浦町立大台分校の閉校式が、15日(土)午後1時、大台分校校舎にて行われ、卒業生ら約40人が参加した。閉校式は、大台分校の歴史を振り返り、卒業生らによる校舎への挨拶が行われた。閉校式は、大台分校の歴史を振り返り、卒業生らによる校舎への挨拶が行われた。閉校式は、大台分校の歴史を振り返り、卒業生らによる校舎への挨拶が行われた。



閉校式が行われる大台分校の校舎で、思い出を語る卒業生ら

大台分校は、元一級小の分校として、昭和31年7月に開校した。開校以来、大台分校は、大台分校の歴史を振り返り、卒業生らによる校舎への挨拶が行われた。閉校式は、大台分校の歴史を振り返り、卒業生らによる校舎への挨拶が行われた。

▲平成9年6月12日付 読売新聞より転載

山里に尽きぬ思い出

約80年の歴史に幕
卒業生有志が記念文集

さようなら大台分校

大台小学校大台分校閉校式

大台小学校大台分校閉校式

大台小学校大台分校閉校式

大台小学校大台分校閉校式

大台小学校大台分校閉校式

大台小学校大台分校閉校式

大台小学校大台分校閉校式

大台小学校大台分校閉校式

大台小学校大台分校閉校式

大台小学校大台分校閉校式

大台小学校大台分校閉校式

大台小学校大台分校閉校式

大台小学校大台分校閉校式

大台小学校大台分校閉校式

大台小学校大台分校閉校式

大台小学校大台分校閉校式

大台小学校大台分校閉校式

大台小学校大台分校閉校式

大台小学校大台分校閉校式

大台小学校大台分校閉校式

大台小学校大台分校閉校式

大台小学校大台分校閉校式

大台小学校大台分校閉校式

大台小学校大台分校閉校式

大台小学校大台分校閉校式

大台小学校大台分校閉校式

大台小学校大台分校閉校式

大台小学校大台分校閉校式

大台小学校大台分校閉校式

大台小学校大台分校閉校式

大台小学校大台分校閉校式

大台小学校大台分校閉校式

大台小学校大台分校閉校式

大台小学校大台分校閉校式

大台小学校大台分校閉校式

大台小学校大台分校閉校式

大台小学校大台分校閉校式

大台小学校大台分校閉校式

大台小学校大台分校閉校式

大台小学校大台分校閉校式

大台小学校大台分校閉校式

大台小学校大台分校閉校式

大台小学校大台分校閉校式

大台小学校大台分校閉校式

大台小学校大台分校閉校式

大台小学校大台分校閉校式

大台小学校大台分校閉校式

大台小学校大台分校閉校式

大台小学校大台分校閉校式

大台小学校大台分校閉校式

大台小学校大台分校閉校式

大台小学校大台分校閉校式

大台小学校大台分校閉校式

大台小学校大台分校閉校式

大台小学校大台分校閉校式

大台小学校大台分校閉校式

大台小学校大台分校閉校式

大台小学校大台分校閉校式

大台小学校大台分校閉校式

大台小学校大台分校閉校式

大台小学校大台分校閉校式

大台小学校大台分校閉校式

大台小学校大台分校閉校式

大台小学校大台分校閉校式

大台小学校大台分校閉校式

大台小学校大台分校閉校式

大台小学校大台分校閉校式

大台小学校大台分校閉校式

分校の子どもたちをたずねて

東由利町報 昭和52年3月15日号

記事:分校の子どもたちを訪ねて

新校舎に負けずにがんばります

大台 喜びの落成式

東由利町報 昭和四十八年十月一日号

大台分校校舎全面改築

大台分校校舎新築落成

東由利村報 昭和31年7月30日号

大台分校の歴史

大正八年一月三日
冬季文教場として大台三ツ方森下木島孫治氏宅に開く
大正一〇年九月
木島忠太氏小屋改築、大台20番地に大台分教場を開設
昭和二三年一月
分校修理(生徒数20学級数1)
昭和二四年三月
大台分校常置設置が村議会で可決(生徒数21学級数1)
昭和二四年一月
これより昭和二五年三月まで中学校冬季分校を開設

児童6人に熱血先生2人

大台冬季分校が開校

児童7人、元気に開校式

大台冬季分校が開校

児童6人に熱血先生2人

児童7人、元気に開校式

冬に負けず頑張ろう

児童7人、元気に開校式

児童7人、元気に開校式

私財を投じ大台分校に尽くした孫治氏

「感謝状・故木島孫治殿」

翁は大正八年、子弟教育の重要性を認識され、自らの住家に宿小学校大台文教場を開設し、大台、三ツ方森地域の教育文化の礎を築かれました。以来多くの人材育成に貢献された功績まことに大であります。これが、閉校式当日、故木島孫治氏に贈呈された感謝状の文です。大正時代自らの住家に文教場を作った孫治氏。彼が文教場に託したものはなんだったのでしょうか。さようなら大台分校実行委員会会長木島錦市さんにお聞きしました。



▲木島孫治氏

「大正八年から昭和元年まで約七年間、孫治氏は学校で勉強を教えました。思いは本人でなくては知りえないでしょうが、学校にいつている人と同じことを学ばせたい、せめて読み書きだけは人並みにさせたいという思いがあったのではないのでしょうか。」

当時の大台地区は夏も冬も道路が不便であったといえます。本校である宿小学校に通うのも小学四年生以上にならないと無理だったようです。

「大正八年以前は大台地区には学校がなく、独学で勉強した孫治氏は大台の人々のためにと自分の自宅の座敷を開放、自らが教えたようです」

また自分だけでなく大琴の故佐々木与四蔵氏にも協力を仰ぎ、教えていましたが、佐々木氏も孫治氏もお金ももらっていたかどうかは分からず、恐らく奉仕だったのではないかとのこと。

孫治氏は昭和元年、二十八歳の若さでこの世を去りました。しかし、今でも孫治氏は「えらい人、すぐれた人、学校を開いたすばらしい人」として地区に語り継がれています。

孫治氏が残したものの、それは大台地区にいつまでも残ることでしょう。

昭和二五年一月

教室増築、便所水屋新築、校庭整理(生徒数17学級数1)

昭和二七年一〇月

住宅改造、水屋改造、井戸を掘る(生徒数15学級数1)

昭和二八年一〇月

玄関入り口新築(生徒数16学級数1)

昭和三一年三月

新築工事にとりかかる(生徒数13学級数1)

昭和三一年七月

校庭地ならし。地元、大琴応援(生徒数28学級数2)

昭和三一年九月

校舎新築落成式

昭和三七年

電気がつく(生徒数35学級数2)

昭和三九年九月

都市複式教育研究会(生徒数27学級数2)

昭和四〇年七月

玄関を改造、物置に。玄関増築(生徒数20学級数2)

昭和四三年九月

風呂場増築(生徒数16学級数2)

昭和四八年九月

校舎全面改築(生徒数9学級数2)

昭和六二年一月

新物置小屋(総二階)落成(生徒数5学級数2)

昭和六三年四月一日

設置態様が冬季分校となる(生徒数5学級数2)

昭和六三年一月一日 大台分校冬季分校開校式

平成四年一月二日 NHKテレビ紹介

平成六年二月一日 大台冬季分校休校

平成九年三月三日 大台分校閉校

平成九年六月十五日 大台分校閉校式

ありがとう、わが母校よ・・・

故郷を遠く離れても、母校のことは懐かしい思い出として残っているもの。五人の卒業生の方に大台分校に対する思い出を作文で綴っていただきました。それぞれの思いは大台分校に届くでしょうか。



阿部忠蔵さん(秋田市)

現在秋田市で生活しています。式にも出席、懐かしい話しを披露しました。

私が小学校に入学したのは大正十年四月、七六年も前のことである。まず良かったことは、近くの分校で勉強ができ友達と仲良く遊んだことである。

分校には冬になっても教室にストーブもなく寒かったが、薪囲炉裏を囲みいろいろしゃべりながら食事したことが思い出される。

冬道は藁沓を火棚で乾かし、服装は綿入れにモンペ姿でふらんげを腰にしぱり、鞆がないので風呂敷に包み弁当袋を背負って兄達のかんじきで道をくった後について通った。

その頃分校には水道もないので近く

の飲用水路からバケツで水汲みも毎日の仕事であった。

当時通信機関もないので用事のある場合は、隣り近所でも声をはり上げて叫ぶことであり、遠い場所からも聞こえるまで叫ぶことであった。

運動については校庭も狭いので、近くの田圃の中のハサ場を利用して、走る練習や体操競技などに努力した。冬期にはスキー競技にそれぞれ手製のスキーを持ちよりよく滑ったことなど思い出される。

思い出として六年生の時私達同級生三人が転校前に本校より灯油一缶うけ、三人で交替しながら分校まで届けたことが忘れられない。また三人がよく勉強にも努力し夏休み期間中には同級生宅に集り、よく勉強し三人揃って優等賞を受賞し、また私は六年間無欠席の賞状を受けいまでも誇りにしておる。

また分校を終えてから青年学校夜学生としてお世話になり感謝している。



山下美喜子さん(千葉県)

千葉県で主婦業をしつつ、好きな民謡を唄っているということ。式当日も唄いました。

拝啓

我懐かしの大台分校様、雪深い山の地で、いかがお過ごしでしょうか。

この度の廃校との便りをいただき懐かしさと淋しさと胸がいっぱいです。やがてこんな日も来る事は覚悟していたようにも思いますが、また一つ故郷からふるさとが消えて行くような、そんな淋しさを実感しています。

思えば幼い頃より貴校には数多くの思い出があります。古い分校でのやけど騒ぎでは沢山の人々に迷惑や御心配をかけてしまった事、新しい分校では若妻会の皆さんが「秋田甚句」の踊りの練習をしていた事、校庭のどんぐりの木の下では毎日のようにままごと遊びをした事、ワラビを取って郵便屋さんに十円で買ってもらった事、みんなで硬雪渡りをしながら本校まで卒業式の練習に行った事、みんなで相撲やプロレスをした事、授業参観の後のあずき汁、「ホントにんめがったナー」…。村に初めて電気が付いた時の事、



▲大台分校旗

お世話になった大山先生、奥さん、千鶴ちゃん、阿部先生、池田先生、二田先生、和田先生。それぞれの時の流れと共に、それぞれの想いを胸に巣立った私達には貴校で遊び学んだ誇りがありました。そこには他では味わえなかった、ぬくぬくとした人のぬくもりがありました。それは村を離れてみてしみじみと解る村人達の心のぬくもりでもありました。

八十年間、本当に御苦労さまでした。学校としての責務を果たし終えた後、大台の皆様とのコミュニケーションの場として多に活躍される事を心より御祈りしおなごりおしくは、ございますがお別れの便りと致します。

長い間、本当にありがとうございます。かしこ



浅野和子さん(秋田市)

民謡界にこの人ありの浅野さん。式では、大台分校のためにと、唄を披露しました。

大台で生まれ、大台分校に通った数年後、十七才で民謡界の大御所浅野梅若師匠の内弟子となりその後養女となった私の現在は、自分が唄うことだけでなく、後進の指導、高齢となった師匠の健康管理、妻として母として毎日何かを追われるようにめまぐるしく月日が流れております。

そういう中でふと故郷大台を思い出し、子供の頃歩いた分校までの道、遊んだ道をもう一度いろんなことを思いつつ歩いてみたいと思うことがあります。どうして自分がこう思うのかよくわかりません。又車で一時間と少しあれば行けるにもかかわらず実現していません。でもなにかがあつて自分がどうしようもなくなつた時には、大台があると思うからこそ私は自分なりにがんばれるのだと思います。

大台分校はなくなりますが、私の心の中には大台分校に通っている私の姿がくつきりときざまれているのです。



佐藤ちとせさん(仁賀保町)

現在仁賀保町で子供たちに囲まれて幸せな生活をおくっているそうです。

さほど広くない校庭を隔てて、大きな木があった、真ん中から左右に別れている木だった。休み時間はいつもその木に登り、皆で遊んだ。時々おっこちてスリ傷を作ったりした。

どんな吹雪の日でも大人の人がかかじきを履いて歩いた後を、一人づつ同じ所を踏み締めて行く。息も出来ない位の風と雪と足の冷たさは、今もおぼえている。それでも休まずに通つた分校。卒業して二十三年が過ぎ、分校の存在も気に止めずにいたけれど、今閉校を知って、なつかしさでいっぱい。思い起こせばまだまだ色々な事が思い浮かんでくる。

分校での生活が私達に教えてくれたことの一つは、『我慢強さ』ではないかなと思つている。

全国的に少子化の傾向が続いているこの頃、閉校はやむをえないとはいえない淋しい限り。今後は別の形で地元の皆様の憩いの場になる様に願っている。



大台分校はもう一つの家だった

「閉校式は単なるイベントではない、この閉校から大台地域が始まるのだ」と、閉校式後の会計報告会に集まった「さようなら大台分校実行委員会」のみなさんに、写真を囲みながら懐かしいはなしと今の率直な思いをお聞きしました。

「昨年九月さようなら大台分校実行委員会を組織し、まず始めたことは大台分校に在籍した児童らの名簿作りでした」と今回の閉校式までをふりかえるのは実行委員長阿部正さんです。「各家々に確認、今年一月にはほぼ完成した名簿を元に作業を開始しました。記念文集の原稿依頼、式の次第、教育委員会と打ち合わせなどあつという間

に時間が過ぎ去ったように思います」。式当日は、ほたるの光を聞いているうちにこみあげてくるものが抑えられなくなつたといいます。廃校に対する淋しさと、先人たちの思いが八十年の歳月を経てやっとうれしさが入り交じつた感情だつたそうです。大琴小一年に息子さんがいる小松仁さんは、大台分校にあつた教材が閉校式の前に本校に運ばれるのを見て、複雑な気持ちになつたといいます。「何だか大台分校に対する自分の気持ちをもちさられたような感じでした」。兄弟五人の末っ子だつた木島隆さんは「学校に上がる前から兄さんについていっしょに学校で過ごしました。先生もおおらかなもので、一緒にやる



木島あゆみさん(本荘市)

今年高校を卒業、現在羽後交通観光で社会人一年目の忙しい日々をおくっています。

分校での生活は本当に短くあつという間に過ぎていきましたが、毎日が充実していたので淋しさを感じる事はありませんでした。

その大台分校が三月をもって閉校する事になり、今は淋しい気持ちでいっぱいです。大台分校から学んだ事はそれぞれ年代が違っていても何か共通する部分があるのではないかと思います。私が大台分校から学んだものの一つにのびのびとした明るさがあります。私は大台に生まれた事で少しだけ特別な経験をさせてもらったのですから、この明るさを充分に生かしてがんばっていききたいと思います。



さようなら大台分校
平成9年6月15日発行
B5・P50

分校の思い出はつきることがないようです。今回、全員の方の作文を紹介することはできませんでしたが、「さようなら大台分校実行委員会では五十ページにおよぶ記念の文集を制作しています。卒業生の方々によって七十年にわたる大台分校への思いが綴られています」。



当日の会計報告に出席された方々は次の通りです。

2

「さようなら大台分校実行委員会」(以下同)会長木島錦市さん、副会長猪股賢さん、委員長阿部正さん、副委員長猪股保さん、小松仁さん、会計木島金男さん、実行委員木島隆さん、木島省吾さんのみなさんです。お忙しい中での協力深く感謝いたします。



1

うとマット運動などをしたものです」という思い出があるそうです。「学校というより家のようなものでした」。木島隆さんと大の友達だった一つ上の木島省吾さんは「ならの木」が一番印象に残っているといいます。「休み時間には、男も女も皆が登りました。あの木が大台分校一番の思い出です」。また冬期間の通学については、全員が声をそろえて、除雪こそなく雪まみれだったが苦勞と思ったことは不思議になかった、むしろ遊び感覚で楽しかったと話してくれました。

猪股賢さんはいじめなどは大台分校にはなかったと自信を持っています。分校は学び舎であると同時に先生が中心の家のような存在だったのです。最後に木島会長が「大台は住民交流



4

の場であり、物事も学校を中心に決定していた。学校はなくなっても、我々の結束は固い。閉校から大台はまた始まる」と締めくくってくださいました。

実行委員による写真解説

1は昭和二十八年当時の分校全景です。日夜勉強に遊びに励んだものです。(木島錦市さん)

2は昭和十八年頃の大台地区尚農会での記念撮影。当時、現大台分校の敷地は畑になっており、戦時中ということもあり食料増産隊が組織され、国のために働いたものです。(猪股賢さん)

3は昭和五十五年ころの大台分校大運動会の花形、仮装行列です。自治会が三つに分かれて競い合いました。当時自治会でやる運動会は珍しく、新聞が取材にきたものです。(阿部正さん)

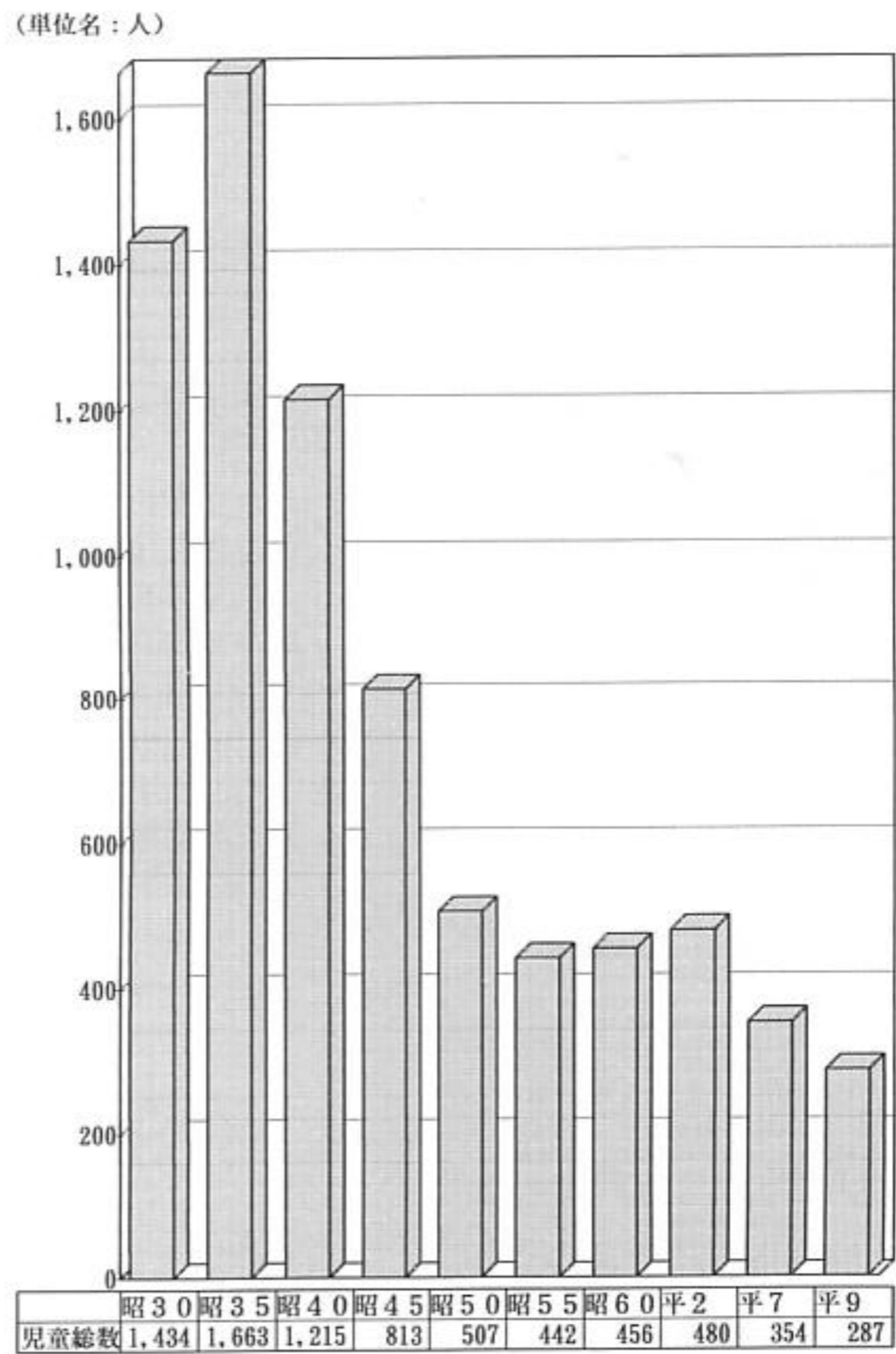
4は昭和四十四年頃の記念写真。我々仲良し三人組が遊びの中心でした。(木島隆さん、木島省吾さん)

2ページは昭和四十四年頃の三ツ方森の松の木下の青空学級。(小松仁さん)



3

町ではどう教育に取り組んでいくのか



▲小学校児童数と学級数、教員などの推移

(資料:学校基本調査)

昨年度から、平成十七年度(西暦二〇〇五年)を目標年度とした東由利町総合発展基本構想『明るく元気の出る町ひがしゆり21C計画』がスタートしました。

この基本構想は「ぬくもりあふれる、ときめく町」を基本理念に、長寿社会を共に寿ぐ町づくり、山紫水明の里づくり、活力ある産業の振興、次代を担う心ゆたかな人づくりを四本柱にした構想です。

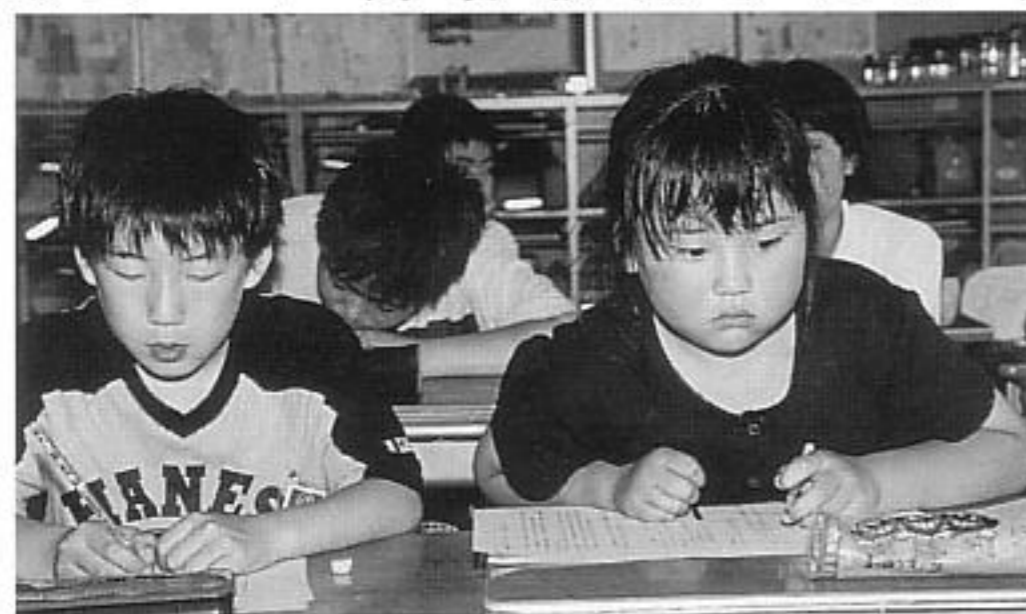
これと合わせて構想を具体化するために作られた基本計画を元に、教育文化について抜粋してみます。

小学校最後の分校であった大台分校。分校閉校後、未来に向け町ではどう教育に取り組んでいくのでしょうか。

町づくりは「人づくり」に始まり、「人づくり」に終わると言われていますが、人が人を育てることの意義を深く認識し推進しなければなりません。しかもその効果はすぐには表われません。したがって、長期的なビジョンを持って、休むことなく地道に取り組んでいかなければならない課題です。

学校教育の現状は、老朽化危険校舎の解消のため計画的統合を推進し、昭和五十六年度の宿・袖山小統合による大琴小学校校舎、同五十七年度の住吉・玉米統合による八塩小学校校舎、同五十九年度の蔵・老方小統合による高瀬小学校舎の完成により、教育施設環境は著しい向上を見ています。

しかし三小学校にお



▲この子らに、私たちが出来ることは・・・

小学校最後の分校であった大台分校。分校閉校後、未来に向け町ではどう教育に取り組んでいくのでしょうか。

町づくりは「人づくり」に始まり、「人づくり」に終わると言われていますが、人が人を育てることの意義を深く認識し推進しなければなりません。しかもその効果はすぐには表われません。したがって、長期的なビジョンを持って、休むことなく地道に取り組んでいかなければならない課題です。

学校教育の現状は、老朽化危険校舎の解消のため計画的統合を推進し、昭和五十六年度の宿・袖山小統合による大琴小学校校舎、同五十七年度の住吉・玉米統合による八塩小学校校舎、同五十九年度の蔵・老方小統合による高瀬小学校舎の完成により、教育施設環境は著しい向上を見ています。

しかし三小学校にお

閉校した他の分校紹介(写真は記念文集)

東由利には、大台分校以外に沼、高村、祝沢に三つの分校がありました。どの学校も現在は閉校しましたが、地域の人々、出身者の心にはいつまでも学校が生き続いています。閉校した各学校を紹介いたします。



沼分校
明治38年
-平成2年

十月が過ぎる頃になると生徒も父兄達も開校される日を待ち遠しく思ったものでした。本校に通学するには、朝、六時頃には家をでなければならなかったし、六キロ近くの曲がりくねったデコボコ道をてくてく歩かなくてはならなかったから、一層誰もが待ち望んだことだったろうと思います。(中略)

毎年その頃は生徒の数も十四、五名居り、一教室で一年生から六年生まで一人の先生が授業を為されるので、主に低学年は午前中が先生を待つ時間であり、午後には高学年の時間でした。(後略)

大琴小学校PTA会報より



鈴木孝弥さん

(沼)

町長日記

ける学級・児童数は平成九年四月一日現在十八学級・二百八十七名で、昭和三十年に比べると千四百七十七名、昭和六十年と比較しても百六十九名の減となっております。

小規模校や複式学級が多くなることは、ゆとりの教育や個々の能力に応じたきめ細かな指導が可能という優位性がある反面、縦の人間関係に耐えるための仲間との練り合いが希薄になり、児童に忍耐力、社会性、積極性、順応性、寛容さが欠けるとの指摘があります。また、児童の生活範囲が学校中心になり、地域社会を見つめたり参加する機会が少なく、自分が生まれ育ったふるさとに対する愛着心が希薄にな

り、ひいては若者の定着が促進されな

いとも指摘されています。このため、今後の教育推進に当たっては、社会科副読本の一層の充実を図るとともに、ふるさと体験学習を奨めるなど、地域有識者や保護者の協力を得ながら地域学習を進め、小規模校の特性を生かしつつ自分の町に誇りを持つた子供を育てていく必要があります。「いつの日からなのでしょう。わたしの中で一番なつかしい、一番もどつてみたい場所と気づいたのは」。大台分校文集の中で大台の思い出を書いている方がいらつしやいました。次代へ続く若い世代が、そう思える学校環境を作っていくべきだと思います。

平成九年度敬老会

平成九年度の敬老会が健康増進センターを会場にして六月二十日に開催されました。せっかくのお集まりが雨ではと心配をしましたが、皆さんの精進よろしく台風もそれほどしたところでした。

昨年から一堂に会するということに致しました。対象者が七十歳以上千二十四名で、ご出席が四百八十八名、約四八%の出席率になりました。会場設営も四百八十八名が一堂にですから満点とは行かなかったとは思いますが、なごやかな敬老会でした。出席の勧誘から確認作業まで一切のお手伝いをいただきました民生委員、婦人会の皆さんには今年も大難儀をかけた。

最高齢者は東光苑の小松周助さんで九十七歳でした。車椅子で元気にご出席でした。

町には九十歳以上の皆さんが三十三人おられますが会場には五人の皆さんが元気においでになりました。ただ残念なことは、毎年元気で最前列にお座りになる大琴の阿部喜代蔵さんのお姿が見えないことでもあります。百歳の長寿お祝い金はこの会場で私からお渡ししたいと申し上げていたのでありますが改めてご冥福をお祈り致しました。祝宴では畑山マサエさんの詩吟や横山治三郎さんの得意の喉での民謡が披露されました。みどり、永慶保育園の園児達にもそれぞれ踊りを披露してもらい、特にみどり園児の「新東由利音頭」に合わせたの踊りには、皆さん大感激でした。今年で会結成

高村、祝沢両分校の文集については、祝沢出身、高村分校に勤務された大瀧村の佐藤晃之輔さんが編集しました。



高村分校
明治35年
-平成元年



祝沢分校
明治35年
-昭和53

現在高村、祝沢両分校は町の集会施設として、地域の人々のために利用されています。

二十五周年を迎える東由利民謡同好会の皆さんにも熱演していただきました。

町づくりの第一を「長寿社会を共に寿ぐ」としてありますが、それはただ長寿を目指すということではなく、長寿を慶ぶ事のできる町づくりを目指すということでもあります。高齢者が健康で、積極的に社会に貢献し、家庭や地域の中で安心して生活ができ、そして高齢者のみならず後世代にとっても長寿を慶び、町全体としての活力になる仕組みづくりを目指すというところであります。この町に生まれそして住んできてよかった、と言われる町づくりを懸命の努力をして参りますと挨拶申し上げます。来年の敬老会にも是非元気においで下さいませうに。

東 由 利 新 聞

ふれあいプラザ「ぶれっそ」7月19日オープン

第二回定例議会は六月十日に招集され、阿部幸悦町長の行政報告、二氏の一般質問の後、平成八年度東由利町一般会計補正予算の専決処分の承認を求めることについてなど四議案を原案可決。陳情などを委員会に付託しました。

十一日には委員会協議を行い、十二日は平成九年度東由利町一般会計補正予算など七議案を原案通り可決し、閉会しました。

行政報告の中で「平成八年度から二カ年継続事業として建設を進めてきた地場産業センターの完成が間近。また愛称としてふれあいプラザ『ぶれっそ』と命名、オープンを七月十九日に予定している」などと述べました。

行政報告生口



▲6月議会の模様

●着々と進む

●道路改良

神岡南外東由利線岩館バイパス北の城ノ横渡間が、総延長千二百メートルをもつて着工されます。本事業は平成十三年度の完成をめどとしています。

幹線町道両善寺線道路改良事業は、平成七年度に新規着工し改良事業を進め、三百五十五メートルの暫定改良を平成八年度末までに実施しています。本年度は大幅な事業費増で拡大実施できる事になりました。

●小松眞悦氏に

●勲五等瑞宝章

永年にわたり町民の医療保健の向上に大きな功績を残され、現役でこ

第二回定例議会



行政報告原稿を作成する町長

活躍中の町功労者小松眞悦氏が、春の叙勲で勲五等瑞宝章の榮譽に輝きました。先生のこれまでのご功績が評価された叙勲の榮譽に心からお祝い申し上げます。

●町税、国保税

●連続完納31年でピリオド

町民税は完納になりましたが、八年度町税、国保税の収納は調停総額四億六千二百二十万三千円のうち、収入総額四億六千六百万円で、収入割合九九・七五パーセント、未納世帯数六世帯、内訳は町外一、町内五世帯で未納額百十四万三千円となりました。昭和四十年以来三十一年度の連続完納が三十二年目で終符がうたれました。新たな出発点に立ち、収納対策に万全を期し自主財源向上を図りたいと思います。

●課税誤りには

●最善の処理を

一市六町が広域電算に加入しておりますが、この度固定資産税の住宅用地関係の一部に入力ミスが発見されました。本町分は納税義務者数で二百六十六名、賦課税額の誤りが十三万円です。今後事務体制とチェック機能を改善、納税者の信頼回復に努めていきたいと思っております。還付処理、未納者分について税額更正など最善の処理策で納税者におわびを申し上げます。

●八月AAB放送塔完成、

●九月以降各家庭でも

AAB中継局敷地造成工事は、土地などの関係者に事業実施説明を行い、五月二十九日着工しました。塔の設置のための造成工事を六月末まで完成させ、塔の設置後道路の補修などを行い、八月三十一日に完成予定、九月以降見ることが出来ます。

●「ぶれっそ」、

●七月十九日オープン予定

地場産業センターについて、町発注工事は順調に進捗しております。並行して個店の設備、内装工事も予定通り進んでいるところです。またふれあいプラザ「ぶれっそ」と命名、オープンを七月十九日に設定して進めています。なお、それに合わせて、駐車場関係、活性化拠点のシンボル塔も発注したところです。

■ 地 域 管 理 問 題

小松久久徳議員

- 防火水槽の設置は全町の見地から計画的に推進すべきでないか
- 今後とも毎年、用地の確保ができた所から優先的に設置していきたい
- 水利確保の観点から新沢川の洲ざらいを充実すべきでないか
- 県で計画的に実施しているが、予算が少なく一気に解消できない。今年も強く要望していく。
- 各分団に小型トラランシーバーなどの機材を整備すべきでないか
- 各分団から必要との声はないが、現場の意見をふまえ協議検討したい。
- 郡市消防訓練大会の規律訓練などは輪番制を検討してはどうか
- これまで通り、町消防大会で優秀な成績を出した分団を出場させたい。
- 町発送郵便物の宛名や住所について住民基本台帳に基づいて正確に記入すべきでないか



▲防火水槽設置はまず用地確保から

○ 町民のプライバシー保護にも配慮。自治会名で差し出す場合には誤配が生じないように十分配慮したい。

● 善徳地内に返地された旧官行造林地は松や雑木が放置状態。維持管理が必要ではないか

○ 将来の資産でもあり、直営作業終了後に維持管理作業に入るよう検討したい。

小野健議員

● 政府による意図的な米価引き下げをどう考えるか

○ 備蓄は年間百五十万トンペースが目安であったが、八年十一月現在、三百五十万トン程と推定され、備蓄過剰の状況となっているようだ。自給率を考え、日本はどうするのかしっかりと政策を望みたい。

● 台湾で発生した豚の「口蹄疫」侵入を防ぐ対策を県、国に要望する必要があるのでは

○ 侵入防止が第一。万が一侵入した場合は、と殺処分しかないのが現状。

● 六歳未満児医療費無料化を

○ 四歳未満児に対して十月から乳幼児医療費を県が半額補助。さらに六歳未満児までの医療費無料化拡大について、要望していきたい。

● 寝たきり老人介護手当について一万円から二万円に引き上げる考えは



▲子供たちの笑顔のために・・・

○ 年間十二万という額は決して十分な額ではないが、県内他市町村の状況から見ると少ない額ではないと考える。出来る限り努力したい。

● 除雪オペレーター慰労会の費用が不適当な形で公費支出していたということについて事実関係を

○ 調査によって判明した過払い賃金は、建設課の独自調査の結果でも錯誤の事実が確認されており、関係オペレーター全員の了解の上、所定の手続きのもとに、全額を四月十五日に町

に返還させた。公金支出や管理の上から誠に遺憾なことであり、深くおわび申しあげたい。

● 家畜農家の成牛が一六頭死亡したが死亡原因とその処理について

○ 独特な経営などが盲点となり、行政・JAなどの接点がなかったことにより起きた。家畜保健衛生所の見解では死亡原因は特定困難、また同所の指導により適切、適法に処理された。

● 東北電力出羽幹線の高圧送電線などから出る電磁波の危険性について

○ 現段階では人体に悪影響があるとも、ないとも明言できないのが、日本および世界各国電力会社の一致した見解。

議 決 報 告

● 東由利町国民健康保険条例の一部を改正する条例について
所得割税率を四・八〇から六・二〇に改正する。

● 団体営土地改良事業施行について
平成九〇三年度まで毎年度予算の定めるところとする。

事業名 中山間地域総合整備事業
地区名 東由利(細田・白山野・沢内・中川原・智者鶴)
工 種 用水路整備
事業量 三、四一〇メートル(五路線)

● 平成九年度一般会計補正予算は九千八十七万七千円増。累計は四十一億六千四百六十二万二千円。

主な内容は▼町道両善寺線の整備費五千三百三十万円▼葎沢地区の基盤整備事業調査費七百四十八万二千円など

● 平成九年度国民健康保険事業勘定特別会計補正予算は二百四十万円増。累計は五億一千五百三十九万三千円。

● 平成九年度特別養護老人ホーム東光苑特別会計補正予算は百六十五万四千円増。累計は二億四千八百六十四万七千円。

主な内容は▼産休等代替臨時職員雇賃金百九万三千円など。

「いつまでもお元気で」

四百八十八人が出席

平成9年度
敬老会

多年にわたり社会に尽くしてこられた七十歳以上のお年寄りを敬愛し長寿を祝福する敬老会が、六月二十日健康増進センターで行われました。昨年度から全町一堂に会して行っている敬老会。本年度は千二十四人を招待、季節はずれの台風が近づく中全体の四八パーセントにあたる四百八十八人が元気に出席しました。



▲いつまでもお元気でと町長

式典では町長が、長年にわたって町を支えてきたご苦労に対する感謝とねぎらいの言葉とともに、長寿のお祝いを述べました。続いて由利福祉事務所長、議会議長からお祝いの言葉がありました。

この後、町長から長寿祝金が小松周助さん(歳)ほか九十歳以上の出席者五人に、また敬老祝金が米寿を迎えられた高橋勇蔵さん(山崎)ほか七人に贈られました。その後今年八十七歳になられた高橋精進さん(智者鶴)ほか二十一人に記念肖像写真と座布団が贈られました。

町一番の長寿者の方は館合新田の畠山アキヨさん(九十八歳)、男性では大吹川の佐藤千代作さん(九十七歳)ですが、当日はあいにく出席できませんでした。

小学生の作文発表では、三人(大



▲出席者で最高齢、小松周助さん



▲園児たちの踊りは好評でした。

琴小二年鈴木成身さん、高瀬小二年小松圭子さん、八塩小六年八嶋さや佳さんの朗読に深くうなずく姿が見受けられました。祝宴では永慶保育園、みどり保育園両園児のかわいいおどりを皮切りに町民謡同好会の民謡などが披露され、出席したお年寄りは唄や踊りにしきりに手拍子を打っていました。会場のあちこちで久しぶりの再会を喜び合いながら、昔の思い出話に花を咲かせるなど、初夏のひとときを心ゆくまで楽しんでいました。



▲488人が出席した敬老会

●長寿祝金対象者● (敬称略)

自治会名	氏名	年齢
館合新田	畠山アキヨ	98歳
大吹川	佐藤千代作	97歳
須郷	小松周助	97歳
大吹川	高橋タケヨ	95歳
大吹川	梅津千代松	95歳
大吹川	佐藤アキ	94歳
大吹川	伊東潔	94歳
岩館	福田末造	93歳
下通	福田末造	93歳
館合新田	小野キクヨ	93歳
館合新田	渡辺哲治郎	93歳
久保	大場ハツエ	93歳
久保	渡辺ミサコ	92歳
八日町	嶽石キクヨ	92歳
館合新田	長谷山長四郎	92歳
館合新田	佐藤与吉郎	91歳
船木	高橋三蔵	91歳
館合新田	小野ミノコ	91歳
上通	畠山ミノ	91歳
新町	柏原房子	91歳
黒沢	千葉五郎	90歳
下通	小松クメヨ	90歳
上通	遠藤ヨシミ	90歳
上通	藤原リツ	90歳
石高	渡辺ツネヨ	90歳
館合新田	菊地ユキヨ	90歳
館合新田	佐藤与吉	90歳
館合新田	畠山サダヨ	90歳
館合新田	畑山マサエ	90歳
館合新田	遠藤ナラミ	90歳
館合新田	小松ヤスエ	90歳
館合新田	工藤ラエミ	90歳
館合新田	小野ハルノ	90歳

ベルトしめた？が合い言葉

シートベルト着用キャンペーン

「あの時、シートベルトさえしていれば・・・」

昨年シートベルト未着用で亡くなった四十一人のうち、四八・八パーセントの二十人は着用していれば命が助かったと県警察本部では推定しています。

現在全県で「ステップ方式によるシートベルト着用推進キャンペーン」を実施しています。ステップ方式とは県下一斉に広報啓発活動、集中取り締り、調査による効果測定を複合的に組み合わせたものです。

平成九年七月一日から九月三十日までの三か月間、「キミとボク「ベルトしめた」が愛ことば」をスローガンに実施いたします。

なお、実施期間中、シートベルトの着用率実態調査が県内各地で行われます。

自分の、そして家族のためにシートベルト着用を心がけましょう。



▲シートベルトは自分の責任で

町と警察が協力、地域安全を

長寿社会対策パイロット地区指定



▲委嘱書交付を受ける委員

東由利町が警視庁から高齢者を保護し、地域社会の安全を確保するための「長寿社会対策パイロット地区」に指定されました。指定期間は本年四月一日から平成十年三月三十一日までの一年間です。

これは高齢化が進んでいる地区を警察が自治体、防犯協会、各種団体、地域住民と一体になって、高齢者の保護の推進、及び社会参加の促進を図りながら、地域社会の安全確保に寄与しようとするものです。

六月三日、有鄰館において東由利町長寿社会対策パイロット地区活動推進協議会が開かれ、委嘱書交付および活動概況説明が行われました。当日は本荘警察署阿部喜代治署長より、十二人の推進協議会および十五人の推進委員に委嘱書が交付されま

した。

なお年間の計画として次の行事が予定されています。

- 五月 駐在所員の「悪質商法」講話
- 六月 ことぶき大学運動会に伴う警察署員とのふれあい交流
- 七月 体験型交通安全教室
- 八月 防犯広報・チラシの配布
- 九月 独居老人対象の安全パトロール
- 十月 交通巡視員による「交通安全」講話
- 十一月 臨時困り事相談所の開設
- 十二月 年末警察署員防犯パトロール
- 一月 長寿社会対策活動アンケート調査
- 二月 高齢者宅の除排雪パトロール

ほいくえん・小学生のみなさんへ

このごろ、「たまごっち」などのゲームであそばないかとクルマなどでよびとめるひとがいます。オモシロそうだな、ほしいな、とおもってもぜったいちがつかないようにしましょう。ゆうかい、ひところしなどのじけんにまきこまれることもあります。はやくうちにかえって、しゅくだい、おてつだいをしてからともだちとげんきにあそびましょう。

(ぼうはんがかり)

長寿化社会はこれからの日本の姿でもあります。高齢者と若年層が共に寿ぎあえる社会を目指したこの事業。今年一年の活動に内外から関心が寄せられています。

富山勉氏、新団長抱負語る

消防新団長任用

町消防団改革による団員の異動が各分団とも順調に行われ、長年にわたり消防団長を勤められた石渡力造氏(四十二年九か月)が退任され、富山勉副団長が五月二十日の団長推せん会で満場一致で推せん、団長に任



▲団長任命された富山勉氏

命されました。

その他の新団員、昇格、退職団員数

- (1) 昇格団員 二十二名
- (2) 新団員 三名
- (3) 退職団員 四十二名

富山勉新団長の話

先輩もいらっしやることもあり、何故私かと戸惑いました。もう少し勉強(技術・隊の動きの把握など)してから・・・とも思いました。しかし町長に任命を受け、団長としての責務を改めて実感しました。

突然の火災に対し消防団員と協力して頑張っていこうと思います。

農林ひがしゆり

特集

甲之つけがたい、自慢の牛多数出陳

第42回町畜産共進会



▲今後、なお一層の研鑽が望まれる



▲東由利の牛は県内でもトップクラスの出来

六月二十八日に畜産広場で開催された町畜産共進会。今年、四十二回を数えます。

畜産共進会は丹精込めて飼育した自慢の牛を一同に集め、資質、体型などを競い合うとともに、互いの飼養技術の向上、知識吸収の場として町畜産振興に大きな役割を果たしています。

今年出陳された七十六頭の内訳を見ると、黒毛和種六十六頭、乳用種十頭(ホルスタイン種七頭、ジャージー種三頭)のいずれ劣らぬものばかり。

審査員も順位決定に苦慮する場面がみられ、町畜産農家の飼養技術が高い水準にあることを物語っていました。

審査員を代表し、審査委員長の県中央家畜保健衛生所の西村和徳衛生指導課長は、「乳用牛、肉用牛ともに発育良好であり、全国レベル以上である。町一丸となって取り組んでいることで、昨年より

改良レベルが上がっている。今後も生産性の高い牛を作られるようにご研鑽願いたい」と講評しました。

今回上位入賞牛から後日行われる第三十三回由利畜産共進会に出陳される予定です。

当日は台風接近にともない、あいにく小雨まじりの天気でしたが、会場には出陳者ももちろん出陳しなかつた農家も多数詰めかけ、真剣なまなざしで牛を見つめ、個体解説に聞き入っていました。上位入賞優等牛は下記のとおり(所有者敬称略)

今年の町の優良牛

(出陳者敬称略)

〔団体賞〕

- 肉用牛の部
- 一位 久山和牛改良研究会
- 二位 館合和牛組合
- 三位 宿下吹和牛改良組合

〔黒毛和種・育成区〕

- 優等賞 ますま3の2(大場明)

〔同・若牛区〕

- 優等賞 きくひめ(小松建一)

〔同・成牛一区〕

- 優等賞 あきひめ(莊野高光)

〔同・成牛二区〕

- 優等賞 ひろみ(遠藤幸男)

〔同・成牛三区〕

- 優等賞 つばさ(大場惣七)

〔同・高等登録牛区〕

- 優等賞 高橋定雄

〔同・繁殖雌牛群区(組合出陳)〕

- 優等賞 宿下吹和牛改良組合

〔同・ホルスタイン種・未經産の部〕

- 優等賞 フィーランド ビクトリア プリンセス (大庭喜一郎)

〔同・ホルスタイン種・経産の部〕

- 優等賞 フィーランド クリスタン スキー (大庭喜一郎)

〔ジャージー種〕

- 優等賞 ウイロー ロマンズ ラッキー サンディ (畑山克司)



町畜産の歴史を刻む

東由利町畜産史完成する

「東由利町史」を補完するために進められていた「東由利町畜産史」がこのほど完成しました。編集作業を行った畑山昭一さん、嶽石文男さんのお二人です。また町畜産にかかわってきた方々の協力があればこそその完成でもあります。



東由利町畜産史

畜産史はB5版の大きさで一六〇ページの小冊子。四百字詰原稿用紙で約六百枚相当にも及ぶもの。

この畜産史は編集の基本として(1)記録に忠実な史に重点

を置き(2)馬・牛・小家畜の三部構成で(3)畜産に関わった方々から事実・エピソードを寄稿してもらい「回顧」とし、読みもの的な面も配慮、(4)グラビアを始め写真をできるだけ多くし(5)町の畜産施策を知るため、明治以降の議会議事録・事務報告と県資料を参考にしています。

本町は牛の黒毛和種産地として県内トップ。藩制時代から馬産地としての地歩があればこそ現在がある、との認識からこの畜産史は編集されました。

編集後記には編集者の二人が「畜産の歴史にとって忘れてはならないと思われることが、こんなに早く人々の脳裏から忘れ去られ記録もなくなってしまうのか」と複雑な思いにかられたとあります。同時に「記録しておくことの大切さ、歴史を刻んでおくことの大事さ」を改めて思い、「そこに誌ではなく史にこだわった畜産史制作の意味がある」とまとめられています。

なお、この東由利町畜産史をご希望する方は、数量限定のため先着順となりますが、町内五百円、町外二千円でお問い合わせは、役場産業課まで(69・2116)

産業課関係町長行政報告

【稲作】

平成9年度転作推進について、転作配分面積ガイドラインは245.9haで、平成8年度と比較して0.9ha多いものです。

稲作指導員について、本年度から丸山氏に代わり田口松雄氏へ委嘱しました。

【畑作】

園芸産地緊急拡大対策事業により直売所10坪、集出荷施設40坪の建設見通しがたちました。いずれもJAが事業主体です。

【畜産】

放牧場の開牧は5月16日で33頭を放牧、内和牛3頭です。家畜市場の平均価格は39万円で額については安定しています。

【土地改良】

葎沢地区ほ場整備事業について、県営で現在進めており、平成9年度採択になりましたが、事業説明会では当初割り当てが調査費等で700万ということで国の補正予算による追加待ちになっています。

中山間地域総合整備事業について、9年度事業採択となり事業着手しております。

町単独産業道路整備事業について、23地区の整備要望があり満杯となりました。

【林業】

造林作業員12名体制で事業に着手しました。本年度より社保・雇用保険加入が義務づけられ全員加入したところ です。

六月家畜市場

区分	頭数	平均体重	平均価格	Kg当単価
雌	16	277kg	303,056	1,094
去勢	28	309kg	434,738	1,407
合計	44	297kg	386,853	1,303

●最高価格雌 360,150 高栄 益美 晴美
●最高価格去勢 530,250 北国7-8 森正 益美

木材共販市況

径級	単価/石	備考
直材30cm上	7,200円	(70年生選別材)
24~28cm	5,650円	
14~22cm	5,550円	
13cm下	3,150円	
曲り材	2,000~3,200円	

(平成九年六月)
14~22cmは今後の品不足を踏まえた手当が入り、対前回比で若干のアップが見られた。24cm上も量産工場の手当が入り久々の好落札率。

林業だより スギの冠雪害

近年、スギ二十年生から四十年生の林のなかに適正な間伐(抜き伐り)をしない林が多くなり、積雪の重みによる幹折れや幹曲がりの冠雪害がみうけられます。

この冠雪害の危険性を測るものさしに樹幹の形状を表わす形状比があります。これは樹高を胸高直径で割った数値をいいます。形状比が大きいほど細く長い幹なので冠雪害や風害などに対する抵抗力が小さくなります。

形状比九十以上が冠雪害などに著しく危険であり、七十

前後で管理するのが適当であるといわれています。

例えば、樹高二十メートル、胸高直径二十センチメートルの立木の形状比は六十となり、冠雪害などに対する抵抗力が大きいということになります。

間伐手遅れの形状比の大きいスギ林の管理は、急な間伐による疎開は危険だから、弱度の間伐を繰り返しながら枝葉を茂らせて、冠雪害などに対する抵抗力をつけてやりま

(町林業懇話会会長

佐藤恒悦氏)

町探検・水道水はどこからくるんだらいい？

六月一日から十日までは水道週間でした。町の水はどこからやってくるのかと、学校社会学習の一環として町内三小学校のみなさんが松沢浄水場を訪ねました。

水道の水と一言でいっても家庭にくるまでには時間がかかります。浄水が出来るまでにはおおまかに言って、原水(伏流水・表流水)貯水池(沈殿)浄水場(ろ過・不純物除去・PH調整・滅菌消毒)配水池家庭のじゃ口という道のりをたどります。

今回、浄水場見学に訪れた三小学校を代表して、高瀬小四年の佐藤秀孝くん、遠藤亜紀さん、小松裕太朗くん、小笠原桃子さんにレポートしてもらいました。小学生たちは浄水場でなにを感じたのでしょうか。

高瀬小四年 佐藤秀孝くん

松沢浄水場は、外から見たら、水を集めているとは思いませんでした。それは、水をとっているポンプがなかったからです。ぼくは、地面の下に水をすいとるポンプがあるのかなと思いました。が、そんなことあるわけがないなあと思ったので、なぞにしてみました。中にはいりました。

最初に入った部屋は、やくちゆう室でした。その部屋は、ソーダ灰という薬が入ったタンクが二つと、パックという薬のタンクが一個と、薬が二種類おいてありました。しかもそのおくには、じかほつ電室があって、そこでは、水を使っではつ電をしていました。雷が落ちると、水を作るきかないが、動かなくなった時も、水が出るようにしているのです。

つぎにその反対の部屋は、黄色のパイプ、青いパイプ、白いパイプがありました。その時町の職員さんが「それは、上に行くからのひみつです」と言った



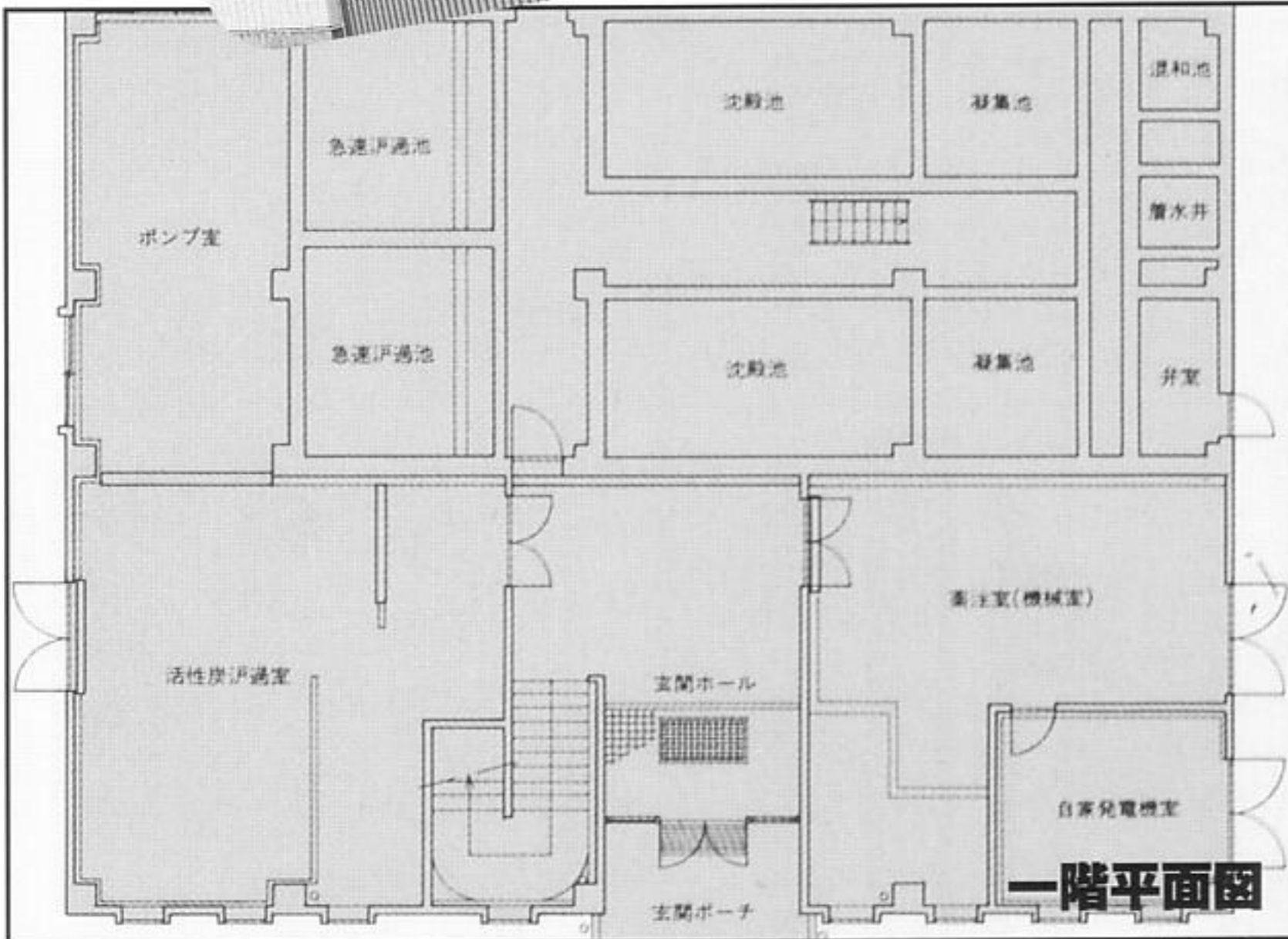
松沢浄水場



薬品注入設備

(小松) うしろは田んぼで前の方は家がたくさんありました。

松沢浄水場について昭和六十年、十二年前にできたのでびっくりしました。



一階平面図

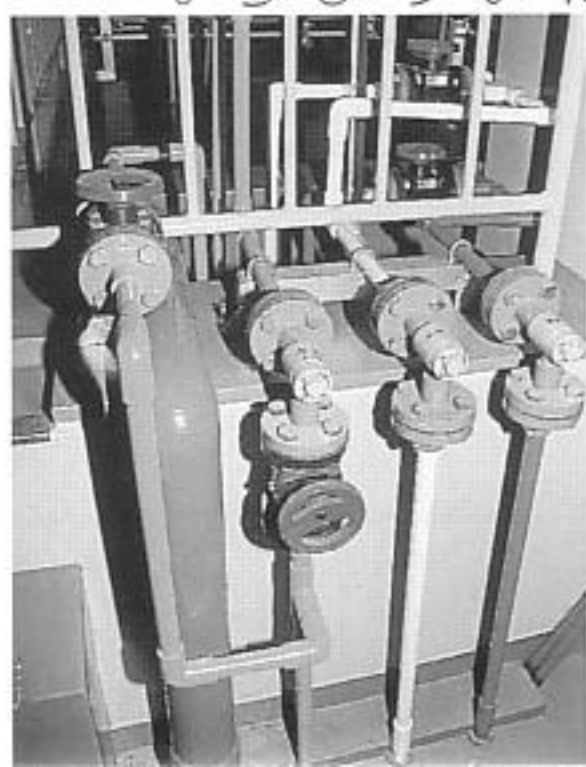
ふつうのたてものに見えてしまう水場というふんいきがありませんでした。(遠藤)

生産量について水は一時間でどのくらいできるのかきいてみました。すると「一時間では、五十四トン作れるんですよ。では一日ではどうでしょう。一日では千二百〜千三百トンできるんだ」といろいろの質問に答えてくれました。(遠藤)

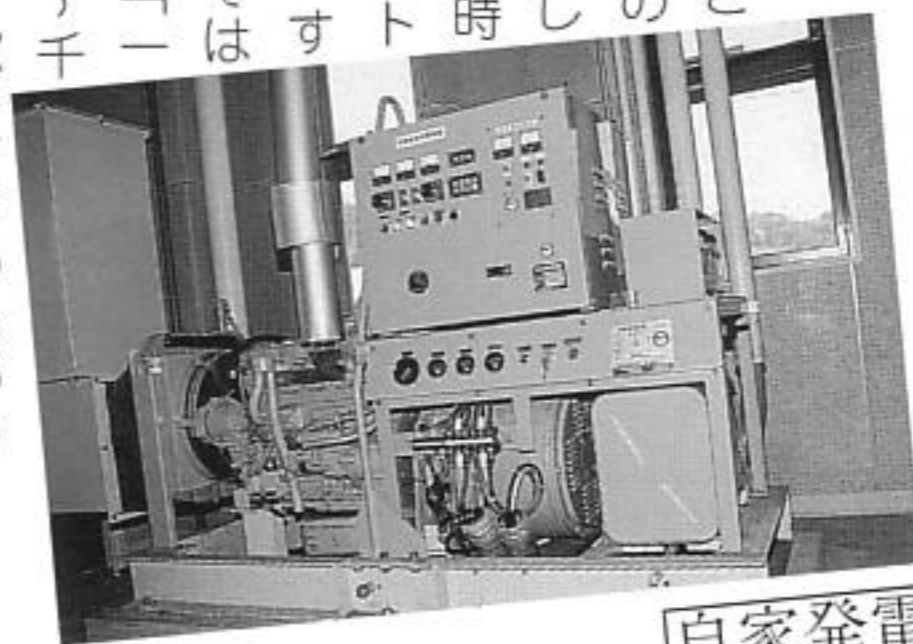
薬注室について

薬品は三つにわかれていて、一つはぱくく、二つ目はソーダばい、三つ目はかっせいたんという薬品です。この薬で水がきれいになるそうです。

かっせいたんは、炭のいっしゅだそうです。やくひんは本荘から買うそうです。(小笠原)



不思議なパイプ



自家発電機



高瀬小のみなさん

ので、またそれはひとまずなぞにしたまま、二階に行きました。
 上にはコンピュータがありました。よく見るとそのきかいはいろいろなボタンがあって、その近くにはへんな物がいっぱいありました。
 つぎに、水が飲める所に行きました。そこにはじゃ口が二つあって、一つは川の水で、一つはしんせん水です。また町職員さんが、「しんせん水だけのんでください」。おいしかったです。
 それから、ろか池を見ました。黄色いパイプ、白いパイプ、青いパイプが出てきました。そのパイプはへんなえき体を出していました。ぼくは、そのためにあるんだなあと思いました。
 そのほかにも、ろか池が二個あって、その一つは、たまにそうじをするときにつかいます。
 最後に、なぞだった地下は、ぜんたく水源からポンプで水をとっていました。ぼくはすごいせつびで、水を作っています。すごいなあと思いました。

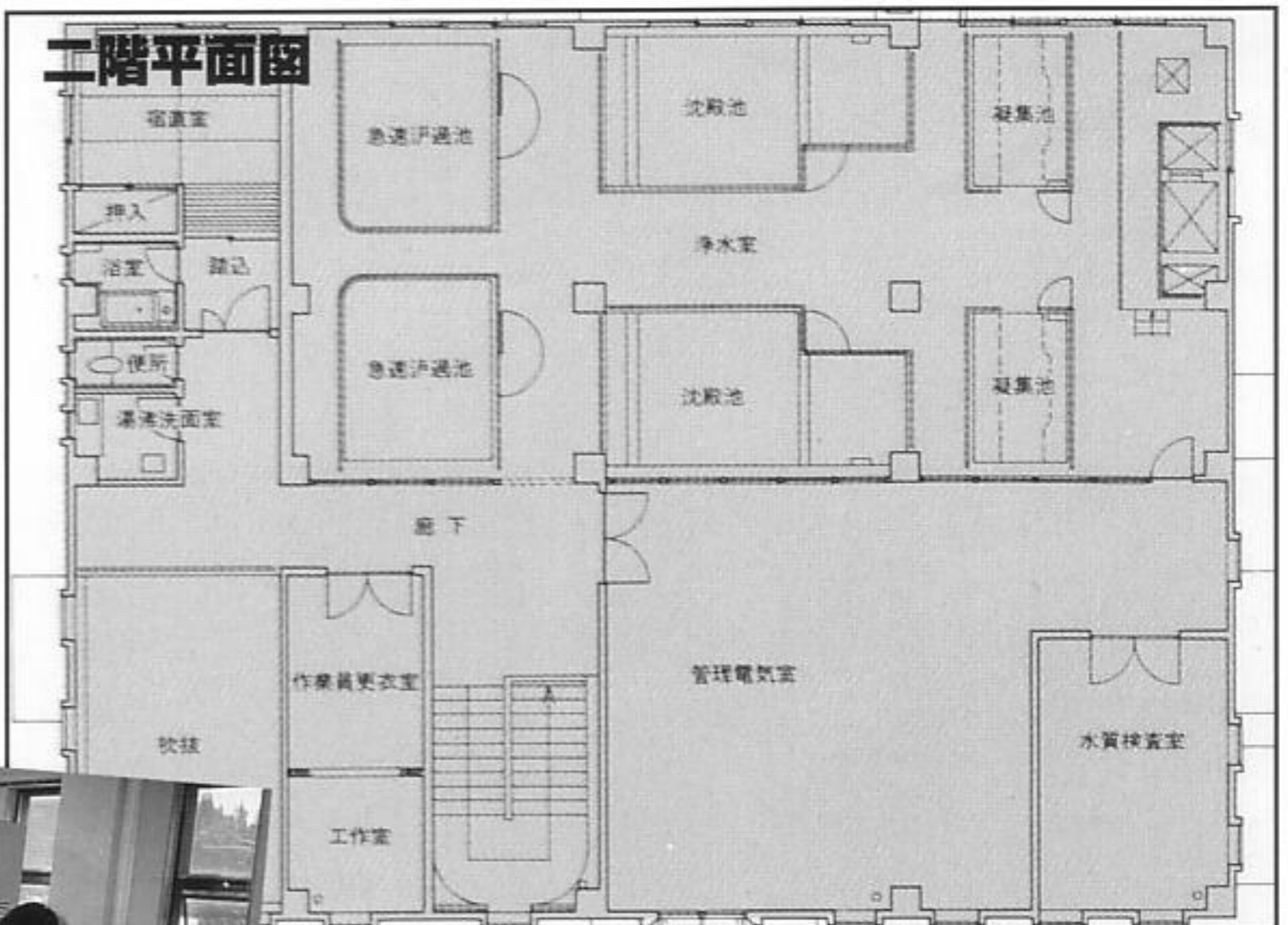


水質検査室について
 できたての水とくらべると、川の水は少し黒か

(小笠原)

ろか池

沈殿池について
 ごみを丸く固めたり、水をかきまぜたりしてありました。二つずつありました。

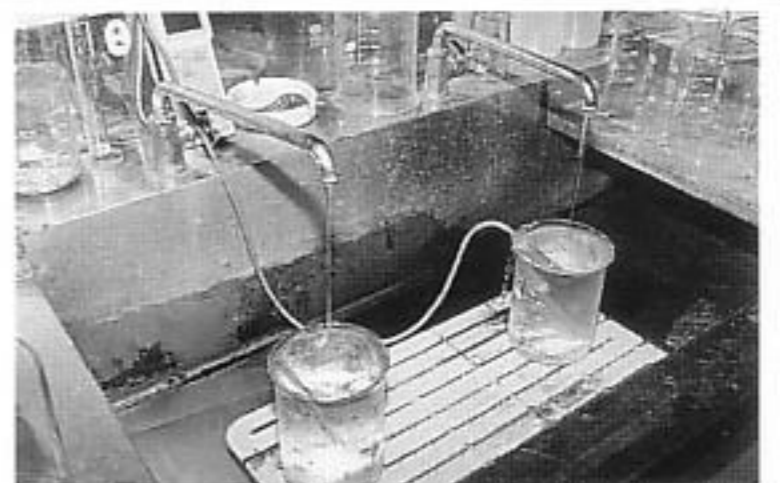


制御室

私たちがのんでいる水にもいろいろなきもちがつまっています。じょう水場ではたらいにいる人たちにもいろいろな苦労をかけていることがわかりました。
 (遠藤)

こんなにくろろして、きれいな水を作っているなんてはじめてでした。水を大切にしようと思いました。
 (小笠原)

じょう水場ではみんなが安心して水が飲めるようにしていることがわかりました。
 (小松)



水質検査室

とてもきれいな水です。
 (小笠原)

せいぎよ室について

せいぎよ室ではきかいがかわれたりしたら知らせるそうちがありました。
 (小松)

全体の感想について



善徳水源池

引率した高瀬小後藤一彦教諭は「子供たちも学習を一通り終え、今まであまり気に留めていなかった水道水が苦労して作られていることを知ると共に、水を大切にしようという気持ちをもってくれたようです」と話してくれました。私たちの命の源の水。この訪問によって、小学生たちが水について真剣に考えたのだとすればうれしいことです。

町水道工事指定店について

平成九年度から水道工事指定店が次の五社になり、水道工事及び修繕を行うことになりました。

- 長谷山施設 長谷山雄悦(69-3807)
- 加藤施設(株) 加藤茂雄(23-0484) 東由利出張所(69-2543)
- (株)佐藤組 佐藤徳市(69-2055)
- (株)小松組 小松義男(69-3712)
- (株)大沼組 大沼武且(69-2425)

また平成八年六月の水道法改正により、本年度から「給水装置工事主任技術者」が国家資格になり、資格を取得するために国家試験を受けることが必要となりました。

しかし、地方公共団体の水道条例またはこれに基づく規程による給水装置工事責任技術者の資格をすでにお持ちの方は、給水工事技術振興財団が実施する厚生大臣の指定を受けた経過措置講習会を受講、その課程を終了すれば、国家試験が免除されます。

問い合わせは
 秋田県管工事組合連合会秋田県支部(0188-24-7761)まで

五穀豊穰を祈願、親睦を深める

唄と笑いに歓声と大きな拍手

田植えも一段落した六月十日、町主催の大きなぶりまつりが健康増進センターで行われ、町民六百人が楽しみました。当日は朝から豪雨でしたが、午後には晴れ上がり、午後四時半から会場にやってくる方もいる盛況ぶりでした。

さなぶりは本来春の農作業を終えた農家の主人たちが神社などに集まり、五穀豊穰を祈願し一献傾けて語りあうもの。大きなぶりまつりはこのさなぶりを

町民みなさんの親睦を深めるものにとしようと開催されているものです。今回は、その趣旨に基づき本町に関係する人々が多数出演しました。

公演では新町生まれの阿部十全さんが総合司会を務め、会場を盛り上げました。

田植えの労をねぎらった町長あいさつの後、会場から無作為に選んだ方に対して、法内出身の神主、遠藤重和さんによるお祓いが行われました。



600人が楽しんだ大きなぶり



▲小和田さんとトーク中



▲十全さんと竹美さん

その後、本町下通出身の歌姫浅野竹美さん、秋田を代表する新舞踊の名手西山鹿寿保さんらによる民謡ショーが行われました。今年二月に秋田県民謡王座決定戦で優勝、歌にますます磨きがかかった竹美さん。舞台上で「地元東由利町で歌うのが一番緊張します」と話していました。また西山さんの踊りはファンも多く、決めのポーズのたびに歓声と拍手が続いていました。続いてサムライ日本のコント、小和田アキ子さんの歌謡ショーには会場中爆笑でした。公演最後には出演者一同によって千個のもちがまかれ、観客サービス。会場は最後まで楽しい雰囲気になりました。



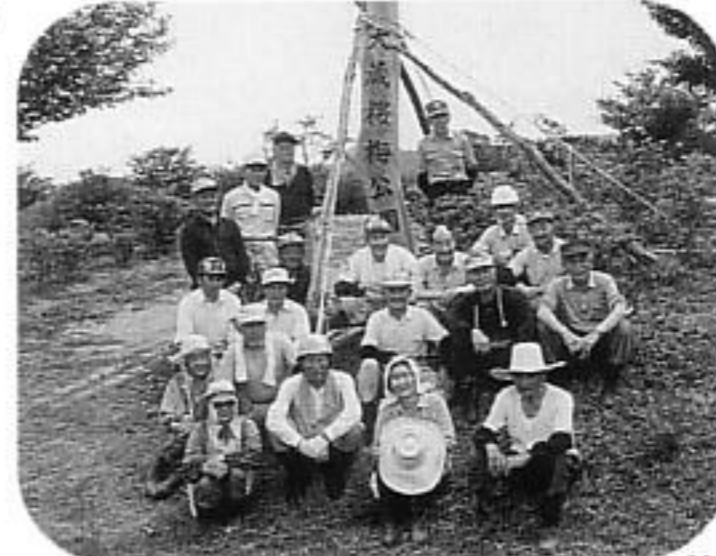
▲うまかったナ、朴の葉まます。

大きなぶりまつり

次代に届けるために

大蔵桜梅公園に標柱設置

この度、畜産広場に大蔵桜梅公園の標柱が設置されました。これは大蔵桜梅会が自分達の活動を次代に残したいとの思いがきっかけ。今後もこの場にしたいとのこと。



終日楽しんだ運動会

ことぶき大学運動会

毎年行われていることぶき大学運動会。今年は六月十一日に台山の町民運動場で約二百二十人あまりのことぶき大学生が参加しました。梅雨時期だけに天候が心配されましたが、快晴に恵まれ、日頃動かすことの少ない体を使い終日楽しみました。



▲若い者には負けません。

町のあっちこっちから

千五百人の老若男女、共に楽しむ

【第四回町スポーツ祭(トラック&フィールド)】

第四回東由利町スポーツ祭「トラック&フィールド」が六月二十二日に、台山の町民運動場で行われました。当日は時期はずれの台風も去り絶好の競技日和。約千五百人が参加、心地よい汗を流しました。

今年で四回を数えるこのスポーツ祭。平成六年度に合併四十年、町制施行二十周年を記念して始まりました。年四回の自治会対抗種目別大会(ゲートボール、トラック&フィールド、ゲラウンド・ゴルフ&ベタンク、綱引き)を通して、最も成績の良かった自治会に優秀杯を贈ることにしたものです。スポーツ祭によって生涯を通じたスポーツ気運を盛り上げながら、地域、世代間交流を深めることをねらいとしています。

トラック&フィールド競技で自治会対抗種目得点になる競技

入賞チーム一覧

綜合成績

●優勝 横渡・蔵 (62)点

●第三位 時雨山 (52)点

分館対抗リレー成績

■男子

優勝 住吉

準優勝 玉米

第三位 老方

■女子

優勝 玉米

準優勝 住吉

第三位 袖山

自治会対抗成績

■ゲートボールレース

1時雨山 2祝沢・茂沢 3大琴

■ニュークリーンアップ作戦

1新町 2新処 3須郷田

■ちぐはぐドリブル

1蔵 2横渡 3石高

■軽く二連発

1小倉 2向田 3蔵



▲運動会恒例の「応援合戦」。熱が入ります。

横渡、蔵両自治会総合優勝!

プログラム終盤の「分館対抗男女四〇〇メートルリレー」は、男女ともにゴール前で大混戦。激しく競いあいました。なお今回横渡・蔵両自治会が同点総合優勝を飾りました。次回のスポーツ祭は八月二十四日に予定しているゲートボール競技です。「毎年好評を得ている競技でもあり、多数の参加を期待している」と主催の町教育委員会では話しています。

は、ゲートボールレース、ニュークリーンアップ作戦、ちぐはぐドリブル、軽く二連発の四種目。各自自治会の参加者は真剣に競技に取り組んでいました。また、借り物競争の「ちよつとはいしゃく」、六十歳以上の「ボトルボール」、歓声をあげながら幼児が参加した「おやつのかんですよ」など自由参加種目も多数あり、各々が楽しみながら参加しました。



▲よし、がんばるぞ。



▲やっぱり白熱したりレー



▲優勝?。いえいえ借り物競争の最中です。



▲どれをとろうかなあ。

東由利を心の支えに・・・

東京東由利会総会

首都圏在住の東由利町出身者で組織している「東京東由利会」。九年度総会が六月八日都内赤羽会館で開かれ首都圏に在住する約百四十人が出席しました。

総会に先だって東由利民謡同好会と浅野竹美さんの歌が披露されました。今年で三回目のアトラクションということもあり、「ふるさとこの歌が聞きたくて」と参加した会員もいたようでした。

総会では平成八年度事業報告、決算報告、平成九年度事業計画などを盛り込んだ議事、役員改選などを行いました。

来賓として出席した阿部幸悦町長は、昨年度の町事業内容報告および本年度予定している事業概要などを中心に町の状況報告を行いました。また、総会前夜、町長、議長が役員と懇談、話し合いを行ったことにふれ、「東由利を心の支えにしているとの東由利会会員の声もあるとのこと。町出身者がいつまでも誇りに思える町を町民一人一人が作ろうとがんばっていると話したところですよ」とあいさつしました。

懇親会では中学卒業以来四十年振りの再会を喜び合う人、一年振りの再会に握手で応える人など、会員は思い思いのふるさと談義に花を咲かせていました。

町から運んだ漬物セットは今年も好評でまたたく間に完売。町制作の町政ビデオを見ながら故郷を懐かしんでいました。

東京東由利会は親睦と交流を図るため昭和三十年に発足し、



▲地元から民謡同好会がかけつけ、民謡を披露。



▲久しぶり!。笑顔がこぼれます。

毎年一度の総会、秋の旅など交流を通じ、東由利出身、首都圏在住者の親睦を深めています。ふるさとは遠きにおいて思ふもの、されど東由利の雰囲気は味わいたいという首都圏在住者にとっては歳を重ねる毎にかげがえのない会になっているようでした。



▲好評だったふるさとの味

碧眼の訪問者が田植え

「日本の農業は腰が痛くなるネ」。

5月17日、18日山崎の小松忠一さんのお宅にアメリカ人のステイブ・ジュード・レンチさんが訪れ、田植えを体験しました。ステイブさんはミネソタ大学の学生でもあり、英語指導助手として仕事もしている方です。小松さんのいとこと知り合いです。ということもあり、ぜひ日本の田植えを体験したいと町を訪れました。

小松さんのお宅でも手植えではなく機械植えですが、それならば・・・と昔ながらの田植え。突然現われた青い目の訪問者と一緒に楽しみながら作業をしていました。



▲日本の田植えタイヘンネ

町のあっちこっちから

様々な体験を通じ、友情をはぐくむ

初めての地引き網など体験

少年宿泊交流のつどい



▲野外での夕食は格別の味でした。

たちの世話にあたりました。「がんばれ、がんばれ」。仲間たちの声に励まされた追跡ハイキング。野外での夕食は自分たちで作った格別の味。暗闇の中恐る恐る歩いたナイトハイク。道川海岸では初めての地引き網体験など。

一泊二日の短時間の共同生活でしたが、子どもたちは他の学校の児童と友情をはぐくみ、様々な体験は楽しい思い出になったようでした。

町内各小学校の五年生を対象とした「平成九年度少年宿泊交流の集い」が、六月十八日、十九日の両日、岩城少年自然の家で行われました。

これは、大自然の中で、規律ある中にも楽しい集団生活を通して、子供たちに自立心や協力する態度を身につけさせよう・・・と毎年行われているものです。

交流会には三校から五十四人（男二十八人、女二十六人）が参加したほか、公民館関係職員、各校の先生方も参加して子ども



▲初めての地引き網。たくさんとれました。

東中学生、陸上で活躍

「今年は近年にない成績です」と役場に報告に訪れたのは、東中陸上選手の名々。六月五日に行われた本荘市由利郡陸上競技大会では、学校総合成績が三位、男子総合では初優勝、また男子八百メートルリレーでも優勝、各個人成績も良好な事から、東由利の名が県にとどろくのは、と期待されています。



▲陸上で優秀な成績をおさめている東中生

活発な活動が評価

山麓会、森林レク協会会長賞受賞

地域の自然を生かしながら町の活性化をと永年八塩ダム周辺で活動してきた八塩山麓会。この度第九回森林レクリエーション地域美化コンクールで、全国森林レクリエーション協会会長賞を受賞しました。

地域のシンボルである八塩山から「八塩山麓会」と命名し、昭和六十年頃から活動を続けてきた同会。八塩いこいの森地内には黄桜を含む約二千本の桜が植栽されていましたが、昭和六十二年、さらに本数を増やすことを考えボランティアで桜植栽しました。

以後平成四年、七年と植栽を継続、同時に隣接する新設林道を

沿いに各種広葉樹を町と共同で植栽しました。その他にも植栽樹木の冬囲い作業、炭焼き窯を設置、抽出される木酢液を地域内樹木の害虫駆除利用、木製遊具の設置などの活発的な活動が評価されたものです。

また、自らが八塩開発の一環をと、春の黄桜まつりを始め、冬期間の八塩の魅力に触れる機会にと「早春・八塩げんきまつり」を開催するなど、恵まれた自然を利用した今後の活動に注目が集まります。



▲喜びの長谷山光会長

東由利文化クラブ

虫歯

なんてないも〜ん。

2歳児健診

()内は保護者



鈴木将太くん
袖山(徳之さん)



長沼桃子ちゃん
新町(利文さん)



高橋友希くん
杉森(忠広さん)



佐藤逸星くん
八日町(博敦さん)



小野寺琢哉くん
板戸(武夫さん)



小番純香ちゃん
下通(具視さん)



渡辺愛莉ちゃん
石高(大芽さん)



歯を守ろう



大日向幸樹くん
大琴(和弘さん)



小野沙耶加ちゃん
祝沢(房範さん)



高橋聖紀くん
新町(孝紀さん)



小野祐季ちゃん
須郷田(一彦さん)



三歳児健診
()内は保護者

童話を あなたに

ティオたちの南の島では「本当に大切なもの」を思い出させてくれる。

受けとる人が必ず訪ねてくるという不思議な絵ハガキを作る「絵ハガキ屋さん」、花火で空いっぱい



南の島のティオ 池澤夏樹/文春文庫
児童文学季刊誌「飛ぶ教室」に連載したものが一冊の本になったもの。夏休みに読みたい一冊。

大きな絵を描いた黒い靴の男など、個性的な人々とティオとの出会いを通して、つましあさのなかに神秘的な豊かさにあふれた島の暮らしをさわやかに、かつ鮮やかに描きたす連作短編集。

東由利の文芸

せせらぎ句会

手造りの小昼はうまし雀の子
朴散華藍を深めし湖の色
雨上りみまわる庭に遠郭公
風鈴にまず腰おろす畑帰り
ボツメキの水をいたたく青田かな
風鈴の音静まりて村昏るる
木蘭に紫の雨こぼれけり
鍵かけて隣りも留守や軒風鈴

小野石路子(上里)
小松順之助(中通)
阿部 澄子(蔵)
小松 良子(山崎)
佐藤 正義(湯出野)
宮野源二郎(横小路)
小松 忠正(下通)
吉川 葉子(時雨山)

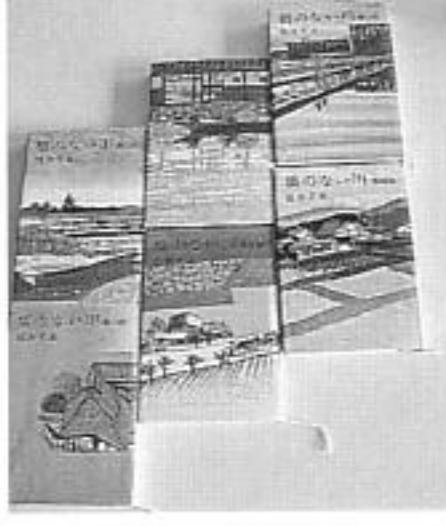
開け放し大きなぶりの集会所
風鈴を磨き南部の音を聞く
同期会欠席に丸花の冷え
風鈴の音消えていく昼下り
山陰や露の広葉に雨の音
一輪車漕ぐまなざしに風薫る
風鈴や手酌の続く妻の留守
植田晴れ生気ひろびろ水廻り
風鈴や机の墨の香もほのか
土産屋のゆれし小枝や炭風鈴
風鈴に寝て風鈴に目覚めけり
山清水樹に括りたる金柄杓
風鈴の吊り短冊に一茶の句
風鈴に醒めたる部屋の窓涼し

高橋民治郎(袖山)
遠藤トミ子(小倉)
小松 女沙(下小路)
大庭喜右エ門(船木)
小松 敏雄(高戸屋)
嶽石 レイ(五海保)
高橋ヒデ子(横渡)
菊地 常作(湯出野)
小野 貞子(蔵新田)
嵯峨 義之(秋田市)
小笠原トミ(蔵新田)
小松 正昭(家ノ下)
小笠原亮子(蔵新田)
小松 徳蔵(湯出野)

私の一冊

小野江みずさん(上里)

「えた」と呼ばれる子供たち。全く同じ人間として生まれたのに、その土地で生まれたということだけで、人間として認めてもらえない差別に苦しむ人たちが、けれども常に自分の思想、信念



橋のない川 住井すえ

をもって前向きに生きていく兄弟。母と父母のやさしさ。まずしい中でやっと作ってもらったはかまを雑巾がわりにされた場面。修学旅行でみんなにのけものにされて一人くやしうてつらい夜を過ごした場面など、どうにもならないやりきれなさやせつなさで涙を流して読んだものです。つらくて悲しい時でも常に前向きに生きていけると励ましてくれる本です。

●六一年に出版されて大きな反響を呼んだ長編小説。被差別部落に生きる人々の長く苦しい闘いを描いたこの作品は六年と九二年にそれぞれ映画化されました。

新着本紹介

公民館図書室より
今月もたくさんのお本が入荷しました。

お気軽にご利用してください。
▼縄文まほろばセット全四巻▼
▼集幕末明治の生活風景▼自分探しの旅シリーズ全八巻▼山中恒よみの文庫全七巻▼図書館でみつけた人生案内全四巻▼サザエさん三・四巻▼野草基本大百科▼報道写真全記録・大震災一年▼きみだけの生きかた全七巻▼秋田のお寺▼王さまの本▼調べて学ぶ日本の衣食住全三巻

アイドルをさがせ!

島山奨くん(3歳・蔵)

お父さん:銅さん

お母さん:真理さん

重機が好きな男の子です。お兄ちゃんときんかをする事が多いのですが、最近では泣かされ

てばかりいます。性格は神経質なところがあるようです。

好きなものはパワーシヤベルなどの重機です。近所で工事をしていた時には半日もじっと見ていました。盛んに乗りたいを連発してました。嫌いなものは動物です。将来は元気でわんぱくに育って欲しい。でも人に対する思いやりだけは忘れて欲しくありません。

(お話し:真理さん)

「下郷」の名を高める

下郷分校野球部キャプテン

佐藤成記くん

分校の野球部員の中には、高校に入ってから野球を始める人が少なくない。だから、最初は経験者との息が合わないし、練習のペースが遅いことがある。

でも毎日みんなが楽しく野球をしている。ただそれだけでもチームがまとまってきているのだと、近ごろ感じている。

今は七月二日から行われる全国



大会県予選に

向けて練習に

励んでいる。春季大会では、何度もあったチャンスを生かせなかった

ので、その反省をもとに、部員と顧問の先生とで話し合いながら練習に臨んでいる。

一日の練習の中で、何か一つだけでもつかもうと、みんな真剣に取り組んでいる。

最近の下郷野球部は弱いというイメージしかないかもしれない。しかし、部員みんなが強くなりたいたいと思っているし、「下郷」という名をもっと高めたいとも思っている。残された時間はわずかだが、今を大切に頑張っていきたい。

僕たち三年生にとっては、今度の大会が最後の試合になる。練習を通して、一、二年生に何かを伝えることができるのはこれが最後だ。

後輩のためにも精一杯頑張ろうと思う。



井田照り

べんてん島のカッパ

(老方・新町)

絵・石渡力蔵氏

むかし、むかし、何百年も前のお話です。

横小路と新町の間のつつみのむこう岸に、林におおわれた小さな島があります。その島にたいそう美しい女が住んでいました。村人たちはその美しい女と会うたび、「おんなぶりええ人だごど、まるで姫様みでだ」と、ふりかえって見とれるほどの美しさでした。

月日がたつにつれて、不思議なうわさが伝わってきたのです。

昼は美しい女の人になって化け、さも人間に会えてうれしいという身振りで、会う人々にほほえみかけ、



夜はカッパになって、道ゆく人たちが馬にいたずらするというのです。でも村の人たちは情け深く、つつみばたを通る時は、ちょうちんの灯りをてらし、「つつみのカッパ、めけカッパ、おらえの田こさ、水っこせで、ええカッパ」と歌いながら通りすぎるのでした。

日がたつにつれ、女の人と会うことも、カッパにいたずらされることも少なくなりました。島では女らしい人の姿をちらりと見たとか、雨ふりの日に、カッパの鳴き声を聞いたとのうわさもありましたが、いつの間にか、うわさ話もぶつりととだえました。

村の人たちは、その女の人は神様になったのだということで、島の林の中に小さなお堂をたて、べんてん様をまつたのです。

それから、どんな日照りつづきでも、つつみの水はかれることもなく、きれいな水をたたえているのです。

今でも花見頃になると、昔をしのぶ人たちが、そこで花見を楽しんでいます。そして、つつみには渡り鳥が羽を休め、近所のふなつりのいこの場と

されていま

す。春から夏にかけて、蛙が住みつき、夕暮れの空にこだまさせ、みごとな大合唱でにぎやかです。

ついに駐在さんは

湯沢警察署田代駐在所からこの四月より宿駐在所に菅原信義巡査長がいらつしやいました。忙しい中、お話しをうかがいました。

◆町の印象について

元気がでる町ということで自治会活動、環境美化を積極的に行っていますね。地域の方々は朝夕の街頭指導、町のクリーンアップなど非常に協力的なようです。



▲菅原信義巡査長

◆目標について

頼れるような駐在となり、事件事故のないような町をつくりたいです。また家族一同、町内の一員として早く溶け込みたいと思います。

◆趣味について

魚つりです。主に海でのつりが好きです。東由利は海、山に近いので海の幸、山の幸を堪能したいと思っています。

柔道は五段。指導でもできたらいいのですが。残念です。

◆皆さんに一言

パトロールで立ちよった際にはよろしくお願いたします。

7月▶データ東由利

〈5/1~5/31〉

住民基本台帳人口()は前月比

- 男……………2,590人(△3)
- 女……………2,739人(△3)
- 計……………5,329人(△6)
- 世帯数………1,401戸()

()は1月からの累計

- ・出生1人(8)・死亡3人(32)
- ・転入5人(46)・転出9人(68)

- 火災出動……………2件(2)
- 救急出動……………14件(62)
- 交通事故……………2件(8)
 - ・死亡……………0人(0)
 - ・傷者……………2人(8)
- 飲酒運転……………0人(0)
- 酒気帯び……………1人(2)

東由利

郷土の野草

NO.149

文・写真

小松忠正氏

日本全土、やや湿り気のある、日陰の山裾などに多く見られる多年草で、高さは六十〜七十センチぐらい、五〜六月ごろ白色の四弁花を花茎の上に総状につけます。茎は直立して梢は分枝し、葉は広披針形で互生し、小葉は五〜七枚の奇数羽状複葉で鋸歯があります。和名は崑崙草で、どうして中国神話にちなむ名がつけられたか不明です。若葉のころは山菜としておひたし、あえ物などにされ、中国では乾燥させて粉にし、蜂蜜でねって、せき止めにするといわれています。



コンロンソウ
(アブラナ科)

広報クイズ

なんとというでしょう。

回答が分かった方ははがきに答え、住所、氏名、年齢、広報感想、イラストなどを書いて東由利町役場広報まで。締切は七月二十日です。特にイラスト(特にこどもさんのもの)などが書き添えられていると、有利かもしれません。

今月、七月十九日にオープン予定のふれあいプラザ。愛称は



七月の行事予定

- 6 消防操法伝達講習会
- 7 川の日
- 18 郡畜産共進会
- 19 ふれあいプラザ「ふれっそ」オープン(予定)
- 19 下郷分校ボランティアスクール
- 20 海の日
- 20 全町河川一斉清掃
- 20 町消防訓練大会
- 23 少年自然教室・八塩いこいの森(~24日)
- 25 農業委員会
- 26 東光苑夏まつり
- 28 農業空中散布

戸籍の窓口

(5月21日~6月20日届出)

- お誕生おめでとう
 - 3/26 長谷山 郁 大くん (冬樹) 田代
 - 6/3 畠山 莉 奈さん (英智) 下通
 - 6/4 遠藤 彩 香さん (育英) 宿
 - 6/18 佐々木 友 恵さん (節子) 新町
- ご結婚おめでとう
 - 6/1 遠藤 英 二さん 上通
 - 6/1 伊東 千鶴子さん 大琴
 - 6/13 小野 新一さん 館倉新田
 - 6/13 伊藤 直美さん 山形県舟形町
 - 6/18 佐藤 誠 さん 律沢
 - 6/18 黄 孟 淑さん 中国

●ごめい福をお祈りいたします

- 3/26 畠山チカエさん(90・玉治・母) 大吹川
- 6/12 梅津 靖さん(77・仁・母) 大琴
- 6/18 阿部 道子さん(43・清和・妻) 蔵新田
- 6/19 大沼タケミさん(96・山肇・養母) 蔵新田

まごころ

町社会福祉協議会に佐藤好男さん(菰沢)、石波力蔵さん(蔵新田)、小松正幸さん(高戸屋)、渡辺恵子さん(下小路)、梅津仁さん(大琴)からご芳志が届けられました。広報送付の謝礼として、伊東ひささん(千葉県八千代市在住)、小

町の宝もの

第63回 小松九八郎碑(台山)

朋楽荘の横の松林の中に、高さ約二メートルの碑に「産馬功労記念」と横、その下に「故小松九八郎之碑」、左右に十六名を刻んだ頌徳碑が建立されています。九八郎氏は老方の生まれで、産馬改良の必要を若い頃から思い立



ち、私財を投じて洋種の種馬を導入、明治十四年全県で二十三名の秋田県畜産協議委員に当選活躍しました。自宅の敷地内に国有の種付所を創設(明治三十六年)したりして、下郷村を県下屈指の馬産地にしたのは、氏の功勞によるところが大きいと思われま

(文・畑山昭一氏)

ほっとひといき!

現在町勢ビデオ(要覧編、観光編)を各分館を始め、学校関係、町施設などに配布すべく準備中です。七月中には配布できると思います。集会等でご活用下さい。今回からパソコンを使って編集作業を本格的に始めました。まだまだ使いこなせず四苦八苦ですが、慣れると便利な道具になるかも。同時に紙面も若干変更しています。あとは内容ですね。(さ)